

2024 年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏 名
教育学部 子ども発達学科	教授	西崎有多子
最終学歴	学 位	専門分野
コロンビア大学大学院修士課程修了	MA	英語教育

I 教育活動

○理念・目標・方針・計画（方法）

【理念】

現在の英語教育、特に小学校英語教育を理論・実践の両面から理解し、その目標を達成できる教員養成に寄与する。特に、児童の毎日の生活や体験を通して、教科書の中の英語ではなく実生活に即した学びを常に考えながら児童の実態に合わせた指導ができる教員養成する。

【目標】

3・4年生での各学生の希望する将来を見据えた活発なゼミ活動、ならびに全学共通科目の英語科目における学生の英語に関する興味関心と自発的学修意欲向上に努める。

【方針】

学生一人ひとりが、しっかりと自己分析をした上で自らの将来に対して何をすべきかを把握し、自主的に前進するための必要なアドバイスを行なう。英語に関しては、色々な言葉や表現を簡単な英語に置き換えて表現できる英語力を養い、英語を身近なものできるようにする。

【計画（方法）】

ゼミ内の学生同士（3・4年も含め）の交流を活発に行い、初等教育コースを中心に小学校・幼稚園教員を想定した指導を多角的・実践的に行う。恒例になっている教職に就いているゼミの先輩たちとの交流を積極的に行い、悩みを解決したり知見を得る機会をつくる。

○担当科目（前期・後期）

（前期）

英語Ⅰ、英語Ⅲ、小学校英語、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅲ

（後期）

英語Ⅱ、英語Ⅳ、小学校英語教育法、専門演習Ⅱ、専門演習Ⅳ、卒業研

○教育方法の実践

専門演習の4年生は、全員教師をめざしており、その希望に沿ったゼミ運営を行った。具体的には、ゼミのテーマでもある小学校英語に関する知識を深め、オリジナルな教材作成やその発表、学会への参加などを行った。毎回小学校教育についての新聞記事などを用いて、諸問題について理解を深め、意見交換を行った。教員採用試験に向けては、ゼミ以外にも時間を調整し、多くの過去問を解き、その出題意図の分析や解答の導き方を繰り返し指導した。後期は、主に卒業研究の執筆について、毎回学生の手稿をモニターで見ながら皆で推敲することにより、推敲の方法を学ぶ機会とし、自らの力でよりよい文章を書くことができるよう繰り返し練習した。進路についても学生の希望に沿うアドバイスを進展に合わせて行った。

英語の授業においては、教科書に加えて授業日当日の海外のニュースや、世界的に話題となったニュースを取り上げ、学生自らが興味を持って検索し理解しようとする力をつけるよう試みた。

○作成した教科書・教材

主に小学校英語に関する、アナログならびにデジタルのオリジナルの教材開発を行い、小学校英語の授業内、ゼミ内で学生たちへ提示し、学生自身の教材作成、教材開発の参考となるものを作成した。英語の授業においては、理解を深めるための補助的プリント等を作成した。

○自己評価

例年同様、個々の学生の夢を達成できるよう、それぞれの状況に応じた指導を行った。結果としてゼミ生5名のうち、この春から4名が教壇に立っており、1名は将来教員になるべく大学院に進学した。教員採用試験については、4試験に合格することができた。

II 研究活動

○研究課題

小学校英語に関する研究、小学校教員に必要な英語指導力、ならびに本学における英語教育に関する研究。

○目標・計画

【目標】

小学校英語に関する研究と本学の学生に適した英語学習・小学校英語指導法の開発。

【計画】

これから求められる新しい小学校英語の在り方について現状を踏まえて研究する。特に、実際に使える英語、自発的な内容の表現を尊重する英語にふさわしい小学校英語教育とは何かについて具体的な指導法についての提案を行いたい。一人ひとりの模擬授業の事前事後を有効に活用し、本学の学生に適した英語教育ならびに教職課程における小学校英語の指導について改善に努める。各自が行う模擬授業等に対して、学生同士の意見交換を活発に行い、授業を行なう上でのポイントを他の学生からの意見も取り入れながら各自が改善できる力をつけ、指導法の改善に対する意識を高める。

○2017年4月から2025年3月の研究実績（特許等含む）

（著書）

- ・白井克尚・今津孝次郎・山本かほる・伊藤数馬・丹下悠史・水野正朗・柿原聖治・西崎有多子『教員養成におけるアクティブ・ラーニングの実践研究』地域創造研究叢書 No.30、唯学書房、2024年、第9章担当、共著
- ・藤田利久・青木雅幸・西崎有多子・森久子『改訂新版 英語で学ぶオフィスコミュニケーション』西文社、2019年、第11章・第12章担当、共著
- ・西崎有多子・鈴木由季子・久保田香直・加藤拓由・山田幸子・岡井崇・藤田しおり・鷹巣雅英・清水万里子・山下桂世子（以上執筆者）、川村一代編著『1日10分 語彙・表現がしっかり定着！ 小学校外国語アクティビティ50』明治図書、2019年2月、アクティビティ9・14・21・29・35担当、共著
- ・今津孝次郎・西崎有多子・白井克尚・中島弘道・新實広記・伊藤龍仁・柿原清治・伊藤数馬『教員と保育士の養成における「サービス・ラーニング」の実践研究』地域創造研究叢書 No.30、唯学書房、2019年2月、113頁の内、第2章担当、共著

（学術論文）

- ・西崎有多子・山本かほる「小学校における「資質能力目標」明確化による授業改善—“この授業で何ができるようにするか”に着目して国語と英語を考える—」『東邦学誌』2019年6月、第48巻、第1号、pp.91-104、共著 URL: https://aichi-toho.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view

main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=568&item_no=1&page_id=13&block_id=21

- ・西崎有多子「小学校教員養成課程における授業実践に必要な英語力の養成一次期学習指導要領を踏まえたアクティブラーニングをとおして一」『東邦学誌』2018年12月、第47巻、第2号、pp.119-125、単著
- ・西崎有多子「小学校教員養成課程における「小学校英語教育法」への段階的学びを考える一苦手意識の克服と指導時の不安軽減をめざして一」『東邦学誌』2017年12月、第46巻、第2号 pp.69-77、単著

(学会発表)

- ・西崎有多子「小学校英語における paraphrase（言い換え）活用の可能性」小学校英語教育学会、第19回小学校英語教育学会北海道大会（全国大会）、北海道科学大学、2019年7月21日、単独
- ・西崎有多子「小学校教員養成課程における「小学校英語教育法」のアクティブラーニングを考える一教材の世界から一步踏み出し、自分らしく楽しく創造する一」小学校英語教育学会、第18回小学校英語教育学会長崎大会（全国大会）、長崎大学、2018年7月29日、単独
- ・西崎有多子「小学校教員養成課程における「小学校英語教育法」への段階的学びを考える」小学校英語教育学会、第17回小学校英語教育学会兵庫大会（全国大会）、神戸市外国語大学、2017年7月30日、単独

(特許) なし

(その他) なし

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

なし

○所属学会

小学校英語教育学会、日本児童英語教育学会、大学英語教育学会、中部地区英語教育学会

○自己評価

諸事情により、研究に十分な時間を割くことができなかつたため、成果を出せず残念だった。

III 大学運営

○目標・計画

【目標】

教育学部教員、初等教育コース担当教員、教務委員会委員、キャリア支援委員会委員として、職責を果たす。

【計画】

教務関係の事項に精通し、主に教育学部の教務関連事項に問題が起きないように、常に配慮する。キャリア支援に関する指導に注力する。初等教育コースについて、教育実習（小学校）をはじめとする、教職課程の諸問題に対応する。

○学内委員等

教務委員ならびにキャリア支援委員として、委員会での情報を迅速に学部の先生方に伝達した。

○自己評価

概ね役割を果たすことができた。

IV 社会貢献

○目標・計画

【目標】

学会やその他の研究会や勉強会における貢献。

【計画】

対面とオンラインを併用し、積極的に参加する。

○学会活動等

学会への参加

○地域連携・社会貢献等

特になし

○自己評価

あまり貢献できなかった。

V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

主に対面ならびにオンラインでの学会や研究会への参加を行う。

VI 総括

コロナ以前に比べて、小学校研究開発校での発表会などが極端に少なくなっており、現場に出向いて最新の授業を見せてもらえる機会がほとんどなかった。来年度は、機会を増やしたい。ゼミでの指導は例年どおり行うことができたが、諸事情により、遠方の学会への参加等も難しく、研究に十分に時間をかけて注力することができなかった。

以 上